

名寄市における

平成23年度「全国学力学習状況調査」の結果について

平成23年度の全国学力学習状況調査を4月19日に実施予定でしたが、東日本大震災のため全国一斉の調査は中止となり、北海道教育委員会では、道内の希望校を対象に9月27日～29日の間で調査を実施いたしました。

そこで、名寄市教育委員会においては、9月28日（水）に市内小中学校の小学6年生（210名）、中学3年生（223名）を対象に「全国学力学習状況調査」を実施しましたので、その結果の概要をお知らせします。

1 各教科ごとの学力調査結果から

<小学校～国語A>

- ・「漢字を読む（移動、演技）・書く（梅、温度）」では大変高い正答率となったが、「非常」の漢字の記入についてはやや低い結果となった。
- ・情報を得るために新聞記事を効果的に読むなど、読む能力で高い正答率となった。
- ・国語辞典を利用して語句を調べる方法では、正答率が高かった。

<小学校～国語B>

- ・言語事項についての知識・理解・技能面は、正答率が高かった。
- ・問題の後半につれて無回答率が高まっていった。

<小学校～算数A>

- ・はかりの目盛りを読んだり平行四辺形の面積の求め方などの量と測定領域では、正答率が高かった。
- ・数と計算領域では、大変高い正答率となったが、整数と小数の除法の計算は正答率がやや低い結果となった。

<小学校～算数B>

- ・棒グラフや表などから情報を読み取るなどの数量関係領域についての問題では、大変高い正答率となった。
- ・比較量の大小判断について理由を記述する問題では、正答率が大変低い結果となった。

<小学校～考察>

- ・漢字の読み書きについては、宿題による繰り返し学習が成果を上げてきている。今後も、定着を図るために家庭学習の一層の推進を図っていくことが必要である。
- ・情報の収集や分析する問題では成果が表れてきているが、理由を記述する問題は苦手と感じているようである。今後も、言語活動の充実を通して思考力・判断力・表現力等の育成を図っていく必要がある。

＜中学校～国語A＞

- ・漢字の読みや語句の意味など言語事項についての質問では、高い正答率となった。
- ・自分の考えをまとめたり、話し合いの方向をとらえて質問を書くなどの問題では、正答率が低い結果となった。

＜中学校～国語B＞

- ・段落相互の関係を理解し文章の展開をとらえる問題では、正答率が高かった。
- ・文章を正確にとらえる問題では高い正答率であったが、提示された形式に合わせて適切に書く問題ではやや低い結果となった。

＜中学校～数学A＞

- ・分数の乗法や整数の加法・減法では、正答率が高かった。
- ・回転移動の意味の理解や四角柱の底面積と体積を求める問題など図形についての領域での正答率が、やや低い結果となった。
- ・比例のグラフと一次関数のグラフの関係の理解についてを問う問題では、正答率が低い結果となった。

＜中学校～数学B＞

- ・グラフから必要な情報を読み取る問題や問題場面における考察の対象を明確に捉える問題では、正答率が大変高い結果となった。
- ・証明を振り返り新たな性質を見いだす問題や発展的に考えて説明する問題では、正答率がやや低い結果となった。

＜中学校～考察＞

- ・国語では、話すことや聞くことについての成果は上がってきているが、書くことについてはやや低い結果となり、自分の考えを簡単にまとめて書くなどの場面を取り入れるなどの工夫が必要である。
- ・数学では、図形の特徴を的確にとらえたり理由を考えたりする問題での正答率が低い結果となり、数学的な見方や考え方の指導の工夫が必要である。
- ・国語の漢字の読み書きや数と式の計算問題では、正答率が高く、宿題など繰り返しの学習の成果が表れてきているが、論理的に思考したり自分の考えをまとめるなどの問題では、低い結果となり、思考力・判断力・表現力などの言語活動の充実が必要である。

2 学習状況調査結果から

＜小学校＞

- ・「朝食を毎日・ほぼ毎日取っている」と回答した児童が95%以上となった。
- ・「家で学校の宿題はする」と答えた児童が増え9割程度になった。しかし、自分で計画を立てて勉強をする児童は半数以下であり、家で1時間以上勉強する児童は依然として少ない結果となった。

- ・「読書は好きだ」と答えた児童は増えてきているが、「国語や算数の勉強は大切だ」と答えた児童は、全道と比べてやや低い結果となった。
- ・「あいさつをしている」「人の気持ちが分かる人間になりたい」と回答した児童が、やや低い結果となった。

<中学校>

- ・「朝食を毎日・ほぼ毎日取っている」と回答した生徒が約92%と浸透が図られてきているが、全道と比べるとやや低い結果となった。
- ・「家で予習や復習・苦手な勉強の克服に取り組んでいる」と答えた生徒は、少ない結果となった。また、家で1時間以上勉強する生徒は5割程度と依然として少ない傾向にある。
- ・「自分にはよいところがある」と答えた生徒が半数程度と依然として低い傾向にある。
- ・「数学の勉強は好きだ」と答えた生徒は全道より多いが、国語の授業での発表や理由づけなどを苦手と感じている生徒がやや多い結果となった。

<小・中学校～考察>

- ・『早寝・早起き・朝ご飯』運動が浸透してきているが、基本的な生活習慣の中で特に大切な朝食については、すべての家庭で取り組んでほしい事項であり、今後も啓発活動を継続していく必要がある。
- ・宿題については定着してきているが、学習の必要性を指導しながら自ら学習に取り組もうとする意欲を高めていく必要がある。
- ・「あいさつ」「人の気持ち」などの他の人とのかかわりの面でやや低い結果となり、自分を大切にするとともに相手を思いやる心の育成を今後も図っていく必要がある。

3 今後の取り組みについて

名寄市教育委員会では、これらの結果をふまえ、以下の点を最重点課題として各学校と一層の連携を図りながら推進してまいります。

- (1) 基礎的事項の定着を図るために、個別指導、グループ指導、繰り返し指導、習熟の程度に応じた指導など指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図る。
- (2) 思考力、判断力、表現力などを育むために、各教科等の中で必要な言語環境を整え、言語活動の充実を図る。
- (3) 家庭と連携して『早寝・早起き・朝ご飯』運動の啓発活動を継続するとともに、宿題や自己課題を持たせながら家庭での学習習慣の定着を図る。